学生による学生のための
ミニシアター宣伝部隊「映画チア部」

関西のミニシアターにもっと学生を呼び込もうと活動している大学生の団体「映画チア部」。神戸・元町映画館を拠点として2015年に結成されて今年で5年目を迎えるが、実は映画館や映画業界には知られた存在となっている。今年4月20日には大ヒット話題作「カメラを止めるな」のスピンオフ映画「ハリウッド大作戦」の関西最速上映と出演者の舞台挨拶を成功させた。活動内容やその想いを代表の高橋佳乃子さん（神大・3回生）と繁原実沙さん（武庫川大・4回生）に取材した。

活動は大きく分けて3つ。1つ目は「シネマツーリング」。駅で待ち合わせてミニシアターまで一緒に行き映画を鑑賞、その後は喫茶店で感想を語り合うという活動。一人ではミニシアターに入りにくい、趣味の合う人と共有したいというニーズに応える活動だ。学生限定なので、同世代の交流のきっかけにもなっている。

2つ目は拠点である元町映画館で3ヵ月に1度開催するチア部の上映会「チアシアター」。上映機会の少ない作品をもっと観てもらいたいという想いで作品を選定している。時には映画監督の依頼から上映をするそうだ。

3つ目は新開地にある名画座パルシネマしんこうえんとの企画「オールナイト上映」。3ヵ月に1度の開催だが、毎回学生ならではのチャレンジングな視点で3本を選んで上映している。

オールナイト上映は音楽しばりの3本

上映「書くが、まま」では上村監督によるトークイベント・サイン会も開催

こうした活動内容はミーティングで決めている。メンバーは現在約10名と少ないが、趣味の合う学生同士のため精力的に活動ができる。代表の高橋さんは「商業映画と違い、ミニシアターで上映される映画には深みを感じる。映画館スタッフとの距離感が近く親密になれるのもミニシアターの醍醐味。また監督や演者の舞台挨拶が身近に見られたり交流をすることもできる。一度来てもらえればその魅力にはまる”沼”です」と話す。

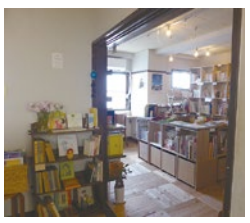
映画チア部繁原実沙さんと高橋佳乃子さん

映画チア部のOB・OGの中には映画関連の仕事に就いたメンバーもいる。現在元町映画館で働く石田涼さんは映画チア部の1期生。「映画チア部は元々学生の来館者数を増やすため、元町映画館から持ちあがった話。当時と比べて学生の来館が画期的に増えたとは言えないが、活動の幅や業界での認知度は確実に上がっている」という。今年4月には京都と大阪に支部を立ち上げた。今後ますます活動に広がりを見せるだろう。

芦屋に5月オープン
絵本メインの古書店「風文庫」と併設の「みつばち古書部」

阪急芦屋川駅から徒歩約1分、住宅街のレトロなマンションの一室に『風文庫』が2019年5月にオープンした。3階まで階段を上がり扉を開けると、「本好きの住民の家」を訪問するようなアットホームな雰囲気だ。

店名は海からの風と山からの風、二つの風が通り抜ける芦屋という立地をイメージしている。店主の長谷川さんは、図書館の業務に携わるなど本に関わる活動を続けていたが、「古本屋をする気はまったくなかった」のだそう。ところがたまたまいい物件に出合った。もともと「本のある場に自分を置きたい」「人が集まる場を作りたい」という思いがあったことから、開店へと話が進んだ。建築士のアドバイスを受けながら床板を張り、本棚を製作するなど、DIYを取り入れて内装を仕上げ開店にこぎつけた。


おばあちゃんの家をイメージしたという店内。

店主、長谷川さんの思いが古書店開店へと繋がった。

内装や絵本の他に『芦屋みつばち古書部』の併設も特徴的だ。みつばち古書部は大阪市阿倍野区・文の里商店街にある、一箱の古本店主が集まる古書店。"部員"と呼ばれる参加者が自分の一箱分のスペースに本を並べ、交代で店番を行うというユニークな取り組みが話題となっている。今回風文庫と併設オープンとなり、地元の本好きから近くなったと喜びの声が多いようだ。店内には募集開始後すぐ集まった参加者の本が並ぶ。それぞれの本棚からは本が好きという気持ちがあふれ、単に本を売るだけではなく、不思議と「この本を読んでみてほしい」というメッセージを感じることができる。

谷崎潤一郎の「細雪」に縁がある芦屋川は、文学の香りが漂う読書が似合う場所。その地に誕生した古書店は、本を通して様々な文化を発信する存在になっていきそうだ。

蜜を集めて持ち寄るみつばちの箱というイメージ

店内にある和室では、ワークショップなどイベント開催の場を提供するとしており、現在主催者を募集している。アート作品の展示や雑貨販売なども行われる。

夏の山岳遭難防止

協力:兵庫県警察

近年、県内の山岳遭難発生件数は100件前後で推移しており、遭難者数は9年連続で100名を超えている。場所別では約半数が「六甲山系」で発生しており、態様別では「道迷い」が最も多く発生している。

事前に登山計画を立てるとともに、ルートや装備品を確認するなど、しっかりと準備をした上で登山に臨もう。夏場は特に、熱中症などの危険性もあるため、こまめに水分補給を行うとともに、体の不調を感じたときは、直ちに登山を中止しよう。

もし遭難してしまったら

「 119ばんつうほうプレート 」

六甲山等の登山道には「119ばんつうほうプレート」が設置されている。プレートの番号で位置が分かるようになっているため、通報時にプレートの番号を伝えることで、迅速な救助につながる。警察は消防と連携しているので、110番通報時もこの番号を告げよう。

「 地図アプリ 」

「119ばんつうほうプレート」等の設置がない場合は、スマホ、携帯電話などで自分の居る位置を確認しよう。携帯電話の位置情報（GPS）サービスをONにした状態で地図アプリを起動し、地図アプリで表示された緯度・経度を110番通報時に伝えることで迅速な救助につながる。

「 ヘリコプターに合図 」

捜索のヘリコプターが近くまで来れば、次のような合図で居場所を知らせよう。

- 目立つ色の物で大きく合図
- 鏡やライトでヘリコプターに光を向けて合図
- 樹木が密生している場所を避け、広場等で合図